施設、介護療養型医療施設及び特別養護老人ホームにおける待機者が百九十五名ほどおります。

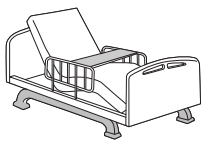
問　平成十八年度開始の第三期介護保険事業計画で従来と大きく変わる分野については。

答　四月から介護保険法の改正に伴い、六十五歳以上の高齢者が尊厳を持って自宅を含む地域で自立していくことを目指して、高齢者の身体状況に合ったサービス体系を確立していきます。

予防施策の中心として、総合的な相談窓口機能、介護予防ケアマネジメントなどを行う地域包括支援センターを市役所内に設置します。

将来的には、旧野栄町地域に一か所設置します。

サービスの確保については、日常生活圏域に小規模多機能型居宅介護施設、また認知症対応型共同生活介護施設等の整備を検討しています。



保険料の設定ですが、現在は五段階ですが、六段階になります。

保険料の設定と負担軽減措置については、本年度高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画策定に当たり検討しています。

市民病院の救急医療体制について

問　匝瑳市民病院では、救急医療体制についてどのように対処しようと検討しているか。

答　匝瑳市民病院では、輪番制の一次、二次救急を担っております。

しかしながら、医師の不足によりまして、地域住民の皆様方に十二分な医療が提供できるとはいい難い状況です。

現在の救急医療は受け入れ体制の概念では、一次救急は、一般的な疾患で、風邪など重症でないと思われる方を診察し、二次救急は、入院を必要とする患者さんを診察するといった考えであります。

市民病院が提供する病院機能としては、入院サービスが大きなものとなります。

市民病院としては、可能な限り救急の受け入れに努め、地域住民の皆様が、安心して受診できるよう入院機能を充実していきたいと考えています。

地域医療を担う匝瑳市民病院

問　匝瑳市民病院にとって中核病院との連携が不可欠と思うが、経営形態を含めた機能分担について、現時点での市長の所見は。

答　東総地域医療連携協議会の協議を踏まえて、旭中央病院を中核とした東総地域の医療機関の連携体制をつくり上げていただき、その中で、市民病院の経営形態や機能分担について検討していきたいと考えています。

施設の利活用・有効活用のために

問　のさかアリーナは無料開放されているが八日市場ドームは有料となっている。同じ市民でこのような格差があって良いか。心からみんなが合併を喜べるような、施設の利活用・有効活用のため、どのように考えているか。

答　八日市場ドーム、のさかアリーナの使用料について、今回の合併に伴います使用料に関する調整では、旧八日市場市、旧野栄町で減免の規定が違っていました。

調整の結果は、当分の間はこれまでの経過を踏まえ、旧来の市町それぞれの管理施設を従前の規定を適用して運用するということで、調整をしたわけです。

今後は、匝瑳市体育施設運営委員会等の議論を踏まえ、統一のとれた減免規定に改めて、より一層の健康増進やスポーツ振興のための施設として、利用促進に努めていきたいと考えています。

小・中学生の生活習慣病

問　当市の小・中学生の生活習慣病の取り組みについては。

答　食生活の乱れから近年肥満の小・中学生が増えており、今では糖尿病や高血圧症などの児童・生徒も増加しています。

子供たちの、糖尿病や高血圧症などの慢性的な疾患を小児生活習慣病と呼ぶわけです。

本市では、四歳児、小学四年生、中学一年生の三回検診を行っており、小児生活習慣病の検診を実施しています。

次世代を担う幼児や児童・生徒などの健康管理につきましては、生活習慣の改善の指導をしなければならない状況になっていると考えています。

保護者の意識、学校での健康教育もさらに充実をしていただき、今後とも、子供たちの心身の健全育成に努めていきたいと考えています。

議案第6号 平成十八年度匝瑳市一般会計予算についての討論の要旨

反対の立場

匝瑳市となって以降の面積も人口も大きくなった新市としての行財政の運営の基本がここにあらわされ、将来に向かっての市の方向性がここに示されている、大変重要な予算だと考えます。

合併したことで、財政上プラスになる効果が平成十八年度予算で見えてくるのではないかと期待して、臨んだわけですが、投資的経費、経常的経費の範囲を尋ねた答弁からは、合併前よりも閉塞感が強まった財政状況であることが示された。

平成十八年度の骨格予算は百二十四億五千万円、うち借金返済である公債費支出は十四・二パーセント、債務残高は十七年度末で百四十一億百万円を見込み平成十六年度末より増額となっている。

一方、歳入面では、市税収入は税制改正の影響を受け、個人市民税、法人市民税は増収が見込まれるが、固定資産税は評価替えの影響があり減、プラスマイナスゼロという答弁がありました。

市長の施政方針では、十八年度予算は、骨格予算編成のため政策的経費や新市建設計画に基づく事業は計上せず、経常的経費や継続事業経費のみを計上したと述べました。

匝瑳市の財政が縮小し困難になった理由として、一年前の合併協議における財政推計では、平成十七年度中の財政調整基金取り崩しを約六億円と見込んだが、現実には旧市町と新匝瑳市あわせて十二億円近くの基金取り崩しが行われる結果となった。

国は、地方への歳出を減らしたい、そのための三位一体改革であり、市町村合併はその重要なキーポイントです。

それに乗っかっての合併、匝瑳市の誕生であるために財政計画を含めた新市建設計画に無理が生じているのではないか。

天井、上からではなくて、下から地べたから市民生活の実態から始まる行政運営、行政執行を求めるものです。

討論

平成十八年度匝瑳市予算では、市民生活に直接結びついているサービスが幾つも削られ、自己負担が大きくなったものもあります。

市民の生活実態を十分掌握していれば、違った結果になるのではないかと考えます。

以上、認めることはできないという立場から反対します。

賛成の立場

平成十八年度予算は、匝瑳市として実質的な最初の予算となるもので、市長選挙の時期などを考慮して、政策的経費や新市建設計画関連事業などを除いた骨格予算で編成しています。

新市長の方針を反映する時間は、十分ではなかったという今回の特殊事情については、理解できます。

予算は、百二十四億五千万円で、旧市町の平成十七年度予算に比べ十億二千万円、率にして七・六パーセントの減であります。

地方財政を取り巻く状況が依然として厳しい中にあって、歳入の範囲内で歳出を見込むこと、歳入に見合った歳出構造への転換を図るということが、匝瑳市の財政においては不可欠であり、基本とするものです。

初代市長として、匝瑳市の未来と市民の幸せのために、耳を傾け、市民総意のもとに全力で当たられるのであれば、市民、我々議員も、この難局を乗り切るための協力は惜しまないと考えます。

予算内容でありますが、旧市町それぞれの重点事業を継続するため、八日市場駅南口広場の整備や今泉地先、川辺地先、松山地先の市道整備などが計上されています。

将来のまちづくりを見据えて、駅南側の発展、そして地域の均衡ある発展に向けて、まちの活性化やにぎわいを創造していくための礎が着実に築かれようとしています。

新規事業としては、匝瑳市のまちづくりの指針となる総合計画に着手するほか、国民保護対策事業や障害者計画等策定事業、地域包括支援センター運営事業、児童生徒安全対策事業などが盛り込まれています。

このほか旧市町からの政策として、循環バス運行事業やコミュニティ育成事業、環境